

横井小楠

—その業績と生涯—



2 時習館に学ぶ

小楠は8歳の時、藩校時習館に入學します。時習館は、第8代藩主^{しげかた}*細川重賢がつくった肥後藩の学校で、宝暦5年(1755)の正月に開校しました。時習館には、①学問所と武道所があり、文武両道を学ぶことができる。②藩士の子どもだけでなく、農民や町人の子どもでも優れた者は入学できる。③試験制度があり、合格すると上級の学科で学ぶことができる。④成績優秀者は藩の費用で寮に入って勉学ができる、などの特色がありました。

熊本城二の丸にあった時習館の敷地は南北に長く、正門のある南側に武道所「東榭・西榭」があり、中央から北側にかけて学問所がありました。初等科に入學した小楠は、中央にあった「習書斎」で習字を習い、「句讀斎」で素読(音読)を学びました。中等科に上がると「蒙養斎」で、グループによる*儒学の古典の読み合わせをしたり、先生の講義を受けたりしました。このほか、礼儀作法や数学、音楽などの学科もありました。14歳のころ、水道丁(現在の安政町)に引っ越しした後も勉学に励み、15歳の時には、藩から「句讀・習書や詩作の成績が優秀」ということで褒美をいただいています。このころから、小楠は希望する武芸師範に入門し、武道所で武術の鍛錬を行うようになりました。

また、時習館では試験に合格すると、一番北にある講堂「尊明閣」で高等の学問を学ぶことができ、小楠も試験に合格しました。21歳の時には、第12代藩主^{なりもり}斉護から「学問数年よく進み、居合も上達

江戸時代、武士の子どもは、武芸(剣術など)や儒学、礼儀など文武両道を身につけなければなりませんでした。肥後藩士の子として生まれた小楠は、それらを藩の学校「時習館」で学びました。時習館での小楠の学習の様子や成果はどうだったのでしょうか。



▲時習館跡(熊本城二の丸)

し、槍術・游(水泳)も心掛けがよい」と褒められています。

講堂生の中で成績優秀な者は、居寮生に選ばれ、敷地の東側にある寄宿舎「萬義斎」に入ることができます。小楠は25歳になった天保4年(1833)に居寮生に昇進し、同7年には居寮生世話役に任じられました。また、藩主より紋付上下(袴)一具も与えられています。さらに、同8年(1837)2月、その中で最も優秀な者が就任する居寮長に抜擢され、米10俵が支給されました。小楠29歳のことです。

*細川重賢(1720~85)…

第8代(肥後藩では第6代)藩主で明君といわれた。堀平太左衛門を登用して財政などの再建に取り組み、「宝暦の改革」を行った。

*儒学…

古代中国の孔子の教え(仁や礼)をもとにした学問。



▲時習館(南西側から見る)

「熊本城復元模型」天守閣展示より



▲小楠旧居跡(安政町)

このコーナーは、菅 秀隆さん(元横井小楠記念館長)が執筆しています。